

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あお（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年11月14日		～ 令和7年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年11月14日		～ 令和7年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士・保育士・児童指導員といった専門職が療育支援に関わっている。	<ul style="list-style-type: none"> 多職種が連携してプログラムの作成に携わっている。 一人ひとりのアセスメントを各専門職の視点で行うことができています。 専門職の配置に対する周知をパンフレットやホームページ上で発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議や勉強会の開催など、多職種連携という強みを活かした支援の更なる向上に努める。
2	職員の支援力向上を図るため、研修会への参加を積極的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 障害や発達を理解、支援力向上の為、内外の研修会に参加している。 常勤だけでなく非常勤職員も参加できるようにオンデマンド研修などを推進し、事業所全体の支援力向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修の参加を今後も継続していく。
3	何事も相談できる環境がある。	<ul style="list-style-type: none"> 相談の要望には即座に対応している。保育士を主として様々な職種がいるので専門的な支援を行っている。 皆が安心して利用できる事業所でありたいと考えている。また、態度や言葉遣いなどにも気を付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 気兼ねなく相談できる雰囲気作りを行う。 外部からの相談にも対応していく体制づくりを整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が不足。	<ul style="list-style-type: none"> あおだけを利用しているお子様にとっては、保育所や幼稚園等との交流、地域の子どもと活動する機会を活動として提供できていない。 ほとんどの子が地域移行して保育所や幼稚園に通園しており、交流の機会を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外活動を増やし、地域の方と出会う機会を増やしていく。
2	保護者同士の交流機会の企画・提供が不足。	<ul style="list-style-type: none"> 療育内容や支援といった「本人支援」に重点を置いており、「地域支援・地域連携」に対する情報収集不足・取り組み不足がある。 開催場所（駐車場問題）の問題や、開催時期、また、就労されている方も多くいらっしゃるため日時の調整も難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、地域の高齢者施設の夏祭りに参加した。楽しんでいただけた方が多かったので、来年度も交流の場を模索していきたい。 研修会や保護者交流の企画立案において、内容に関しては保護者のニーズ・意見を聴取し、年間計画として立案していきたい。
3	きょうだい支援、保護者支援が不足。	<ul style="list-style-type: none"> きょうだい支援についての専門知識の学びが不十分と感じている。 保護者向けのペアレントトレーニング等研修の機会を作ることができていないことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> きょうだい児さんの相談を受け、対応した事案はあった。施設として、きょうだいに対しての支援方法や関わり方について更に知識を深め、きょうだい支援をどのように取り組んでいくかを検討、実践していきます。また、きょうだい児と職員が関わったり、話を聞く機会を意識的に増やしていく。 保護者向けの研修等の案内や相談が充実するよう整えて情報発信を行う。